

一人ひとりの個性を最大限に活かして 豊かな人間性・たくましく美しい心身を育む

創立以来の全人教育と、グローバル教育で高い実績を上げてきた昭和中学校・高等学校。先の見えない時代、生徒一人ひとりが自らの特性をしっかりと見極め、どんな社会においても自立してたくましく生きられる女性の育成を目指している。同校の教育について、粕谷直彦中学校教頭につかかった。



中学校 教頭
粕谷 直彦 先生

アクティブラーニングや体験学習を多く取り入れた、実践的な学びが特徴の中高一貫教育カリキュラム[SHOWA NEXT]



中学2年生全員が、マサチューセッツ州ボストンにある学園施設[昭和ボストン]を活用して12日間のボストン研修を実施



より実践的な語学力と国際感覚を育て、世界への扉を開く「グローバル留学コース」



理数系進路に特化して、学力および科学的な好奇心・思考力を養う「スーパーサイエンスコース」

自分が社会のために何ができるか 中高でその基礎となる力を修得

女性の社会進出が進み、世界中で女性リーダーが求められている現代。粕谷直彦教頭は、「中学・高校という多感な時期、生徒たちにどういう力をつけさせるべきか。世の中に対し、学校の役割が問われていると痛感しています。改めて建学の理念のもと教育体制を整備し、自立し、社会でたくましく生きる女性を育てたいと考えています」と語る。

実地体験を通して課題を発見し 解決方法を探る

抱えているさまざまな課題にどうアプローチし、解決に結びつけるか。そこには物事を深く追究する力と、周りに発信し実行していく力が必要です。中高の6年間でそのための基礎を身につけて欲しいのです」

そのために同校が実践しているのが中高一貫教育カリキュラム「SHOWA NEXT」。アクティブラーニングや体験学習を多く取り入れた、実践的な学びが特徴で、その集大成とも言えるのが「サービ斯拉ーニング」だ。

高校1年から始まる「サービ斯拉ーニング」は、実地体験を通して社会的な課題を発見し、解決方法を探っていく授業。ボランティアの定義、歴史、世界の現状、意義などを学びつつ、地域でボランティア活動を行い、活動の中で学んだことを共有して課題を発見し、

高2で解決策を提言していく。具体的な研究には、左ページの「サービ斯拉ーニングでの活動例」のようなものがある。「自分でテーマを見つけ、何ができるかを探して取り組む。それを社会に還元するという体験を通して、自分自身を取り組むべき課題が見えてきます。サービ斯拉ーニングをきっかけに、進路を決める生徒も少なくありません」

もちろんいきなりこうした深く自発的な取り組みができるわけではない。ベースには中学1年から高校2年まで行われている課題探究型学習「私の研究」がある。1年間を通して研究し、論文をまとめて発表するもので、優秀なものは全校生徒の前で発表。中学1年でも、高校生レベルの発表をする生徒もいる。

さらに中学2年はボストン、高校1

生徒の志向・興味により 3つのコースを用意

年では国内外4つの候補地から研修先を選択して研修に出かけるが、旅行前にそれぞれ研究テーマを設定。しっかりと事前調査や研究を行った上で現地に行き、修了後に報告会を行っている。他にも感じたこと、考えたことなどを3分ほどにまとめてクラスで話す「感話」、学年ごとに目標を定めて実施される「学寮研修」、上級生と下級生の協働の場である「朋友班活動」など、同校にはさまざまな体験学習が用意されている。

「研究活動や感話を通して自発的に学ぶ姿勢や自分の意見をまとめる能力、プレゼンテーション力を、学寮研修、朋友班活動ではグループの仲間

と協力する姿勢や、責任感・達成感を育みます。さらにサービ斯拉ーニングで社会とつながることで、「自分たちの活動が社会を変える一歩になる」と実感できるはず。こうした積み重ねが、将来、社会に出てから大いに役立つと思っています」

中学入学期段階で同校には、「本科コース」と「グローバル留学コース」がある。「本科コース」では、どの科目にも偏らずバランスよく学習。一方、「グローバル留学コース」は、将来は海外で活躍したい、海外の大学に進学したい、外国語系や国際教養系の学部に進学したいといった明確な目標を持つ生徒のためのコースで、海外留学が必修となっている。また英語以外の教科を英語で教える「英語イマジェネーション授業」や、ディスカッションやスピーチ、ディベートなどのトレーニングも行っている。

さらに2018年度から、新たに「スーパーサイエンスコース」が設置さ

れた。科学の領域に興味がある生徒や、医療関係をはじめ理数的な能力が必要な進路を希望する生徒のための理数に特化したクラスで、中学3年から編成。アメリカのUCCLAバークレー校で開発された科学教育プログラム「SE PUP」をベースに、実験や実習の時間を豊富に用意し、科学への興味関心を高めるカリキュラムが組まれている。

大学と連携した理数プログラムも魅力で、昭和女子大学はもちろん、一昨年度から特別提携校になった医療系総合大学・昭和大学の研究室なども連携しながら、課題研究に取り組んでいる。

「スーパーサイエンスコースの生徒は、学びに対して特に熱心な印象ですね。大学との連携プログラムにも積極的に参加しており、そうした姿勢が周りの生徒にもいい影響を与えていると感じています」

また、3月にはグローバル留学コースの高校1

年生が、10カ月のカナダ留学に出発。ホームステイをしながら現地校に通学し、高度な英語運用能力だけでなく、体験を通して真のグローバルマインドも身につけられると期待されている。

「今の子どもたちは、ITやSNSなど情報化には成長過程の中で自然に対応できているでしょう。しかし道徳的な部分、心の部分を十分に育まれてきていないように思います。自己肯定感をどう伸ばしていくか、それが学校の役割だと思います。本校で豊かな人間性を育み、世界で羽ばたいて欲しいと願っています」

サービ斯拉ーニングでの活動例

◎レモネードスタンド

レモネードスタンド活動（アメリカで、小児がんと闘う女の子が始めた小児がん治療研究支援のための活動）を知り、文化祭で実践。売上を寄付し、協会から感謝状を受けた。



◎こども園の給食

併設のこども園でどんな給食が提供されているのかに興味を持ち、健康面を意識したレシピを考え提案。実際にこども園で採用された。



◎商店街の活性化

学校の墓がある松陰神社前の商店街の活性化を目指す。店舗を1軒1軒訪ね、お勧め商品を調べて、MAPを作成。地域の人々に配った。



附属校ならではの学びの『場』が 生徒をたくましく育む

本校が立地する昭和女子大学のキャンパスには、こども園から大学院までがそろっています。広い人工芝グラウンド、自由に使える大学図書館など施設も充実。生徒は中学3年で大学の授業を体験できるほか、高校では大学教員がグループ研究の指導を行う「ラボ活動」も始まります。また中学の段階から、敷地内のこども園で保育実習に参加できますし、英国系のインターナショナルスクールが隣接しており、互いに行き来して一緒に授業を受ける機会もあります。加えて2019年9月に

はテンプレ大学日本本校も昭和女子大学のキャンパスに移転。生きた英語に接するだけでなく、多様な考え方や文化に触れることで、改めて自分自身を見つめ直す機会も得られるでしょう。日々大学生の姿を身近に見ながら、将来のイメージを膨らませる——さまざまな施設がそろっている本校ならではの『場』が、生徒にたくさんの刺激を与え、たくましい女性へと育てていくのです。

入試広報部長 杉村 真一朗 先生